

佐世保工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	インターンシップ	
科目基礎情報							
科目番号	1650			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	複合工学専攻			対象学年	専1		
開設期	通年			週時間数	1		
教科書/教材	各インターンシップ先の企業で準備される教科書および教材						
担当教員	川崎 仁晴						
到達目標							
1. 実践的技術感覚を養い指導的技術者となるための感性を養うことができる。(D4) 2. 組織の中で活動することにより、技術に関する社会の要請を知ることができる。(D4) 3. 学理と生産との総合的関連を体験することができる。(D4) 4. 異文化への理解と協調性を養うことができる。(E3) 5. 科学技術に関する問題意識を養うことができる。(E3) 6. 専攻科における基礎研究及び開発研究の自立性を高めることができる。(D4)							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1 (到達目標 1, 2, 3, 6)	実践的な能力を身につけ、技術者が経験する業務上の問題や課題を理解して適切な対応が主体的にできること。			実践的な能力を身につけ、技術者が経験する業務上の問題や課題を理解して適切な対応ができること。		実践的な能力を身につけ、技術者が経験する業務上の問題や課題を理解して適切な対応ができない。	
評価項目2 (到達目標 4, 5)	学内外の人々と協調し行動すると共に科学技術に関して問題点について具体的な事例を挙げて説明できる。			学内外の人々と協調し行動すると共に科学技術に関して問題点について説明できる。		学内外の人々と協調し行動すると共に科学技術に関して問題点について説明できない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 D-4 学習・教育到達度目標 E-3							
教育方法等							
概要	専攻科1,2年生を国内または海外の企業・大学・公設試験所等の受け入れ機関に派遣し、受け入れ機関の業務や各種研修(教育等)プログラムに従事させ、企業・大学・公設試験所等の現場での体験を通して、指導的技術者として必要な経験を得らせると共に、社会との密接な接触を通し実践的技術感覚を修得する。						
授業の進め方・方法	予備知識：インターンシップ受け入れ機関で必要とされる専門基礎科目の理解を深めておく。 講義室：インターンシップ受け入れ機関(各企業・大学・公設試験所等) 授業形式：受け入れ機関のプログラムによる 学生が用意するもの：各企業・大学・公設試験所等が指定したもの						
注意点	評価方法：本人の報告書および発表会と企業・大学・公設試験所等の指導者による評価書により総合評価とし、60点以上合格とする。 自己学習指針：インターンシップを希望する企業・大学・公設試験所等について自ら情報を集め、申請書作成や事前面接等に対して柔軟に対応できること。 オフィスアワー：木曜日(16:00~17:00) インターンシップ受け入れを表明してきた国内または海外の企業・大学・公設試験所等に自ら出向き、総計約3週間(最低2週間程度)の業務や各種研修(教育等)プログラムに従事する。実習先の企業・大学・公設試験所等において、担当者の指導の下に、実務課題の解決に関する全般的な作業や学修を行う。 (派遣実施方法・期間) ・連続的に総計約3週間(最低2週間程度)、現地に滞在し体験・学修時間を確保する。 インターンシップの手順は以下のようになる。 (1) 国内または海外の企業・大学・公設試験所等へインターンシップ受け入れ依頼 (2) 受け入れ企業・大学・公設試験所等への学生の希望調査・依頼、インターンシップ先決定、必要書類の作成・発送 (3) 受け入れ機関において業務体験や各種研修(教育等)プログラムの学修 (4) インターンシップ報告書と日誌を作成し学校に提出 (5) 受け入れ先がインターンシップ評価書を学校に提出 (6) インターンシップ報告会を通して総合評価						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	実習会社での実習 (2週間以上、1日6時間×10日=60時間)		実習先の企業における理念、社是等を分析、理解できる。		
		2週	実習会社での実習 (2週間以上、1日6時間×10日=60時間)		実習内容の目的と注意点を理解することができる。		
		3週	実習会社での実習 (2週間以上、1日6時間×10日=60時間)		現在学んでいる授業内容が社会にどのように利用されているのか、その意義や応用を説明できる。		
		4週	実習会社での実習 (2週間以上、1日6時間×10日=60時間)		技術者や研究者として必要とされている能力や知識を説明できる。		
		5週	実習会社での実習 (2週間以上、1日6時間×10日=60時間)		技術者や研究者として必要とされている倫理観が説明できる。		
		6週	実習会社での実習 (2週間以上、1日6時間×10日=60時間)		実習先の企業の内容とその強み、競合他社との差異などを説明できる。		
		7週	実習会社での実習 (2週間以上、1日6時間×10日=60時間)		責任ある仕事を進めるための基本的なマナーや行動規約などを理解し、説明できる。		
		8週	実習会社での実習 (2週間以上、1日6時間×10日=60時間)		日本および海外における仕事の進め方を学習し、説明することができる。		

2ndQ	9週	実習会社での実習 (2週間以上、1日6時間×10日＝60時間)	企業におけるコミュニケーション手法について理解するとともに、その能力の重要性を説明できる。	
	10週	実習会社での実習 (2週間以上、1日6時間×10日＝60時間)	国内および国際的な各企業の関係性を認識し、実習先の企業がどのような役割を果たしているのか説明できる。	
	11週	実習会社での実習 (2週間以上、1日6時間×10日＝60時間)	企業活動における品質管理の考え方、コストなどの視点の重要性を理解し、説明ができる。	
	12週	実習会社での実習 (2週間以上、1日6時間×10日＝60時間)	自己の適性を考慮しながら、将来設計に役立てることができる。	
	13週	実習報告資料作成（1）	実施した実習内容をまとめるための資料収集ができる。	
	14週	実習報告資料作成（2）	実施した実習内容をまとめて報告書を作成できる。	
	15週	実習報告会（1）	実施した実習内容を簡潔かつわかりやすくプレゼンテーションできる。	
	16週	実習報告会（2）	他の実習生のプレゼン内容を理解し、適切に質疑応答できる。	
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
評価割合				
	報告書	発表	受け入れ機関評価	合計
総合評価割合	30	20	50	100
基礎的能力	0	0	0	0
専門的能力	30	20	50	100
分野横断的能力	0	0	0	0